

別表1 機能要件一覧

No.	区分	機能名	機能詳細	備考
1-1	廃棄物受入（入口）	事業者情報の入力	QRコードまたはICカードを利用した、事業者情報の読み取りができること。	
1-2	廃棄物受入（入口）	事業者情報の特定	QRコードまたはICカードを利用して読み取った事業者情報と、システムに登録されている事業者情報を照合し、事業者を特定することができること。	
1-3	廃棄物受入（入口）	受付情報の入力	搬入者による、ごみの発生場所、ごみ種、氏名、電話番号、車番（4桁）の入力ができること。	
1-4	廃棄物受入（入口）	受付情報の入力補助	搬入者による受付情報の入力を、施設職員の画面から代行できること。	
1-5	廃棄物受入（入口）	複数ごみ種搬入の割合入力	複数ごみ種の搬入時、施設職員の画面から、ごみ種の割合を入力できること。	
1-6	廃棄物受入（入口）	市外からの搬入拒否	特殊な例を除き、市外からの搬入受付の拒否ができること。	
1-7	廃棄物受入（入口）	車番読取	車番認識カメラを利用して車番を読み取り、不正車輛を検知できること。	
1-8	廃棄物受入（入口）	不正車輛検知	不正車輛を検知した場合、システム上で施設職員に通知されること。	
1-9	廃棄物受入（入口）	搬入車輛の計量	トラックスケールまたは計量ポストと連動し、計量した結果がシステムに自動連携されること。	
1-10	廃棄物受入（入口）	計量結果の入力	トラックスケールまたは計量ポストの計量結果を手入力できること。	
1-11	廃棄物受入（入口）	遮断機連携	計量終了や搬入車輛通過、不正車輛検知に応じて遮断機が自動で開閉すること。	
1-12	廃棄物受入（入口）	信号機連携	トラックスケール上の状況に応じて、信号機の点灯が自動で切り替わること。	
2-1	廃棄物受入（出口）	搬入車情報の入力	QRコードまたはICカードを利用した、搬入車情報の読み取りができること。	
2-2	廃棄物受入（出口）	搬入車情報の特定	QRコードまたはICカードを利用して読み取った搬入車情報をもとに、システムに登録されている滞留情報を特定すること。	"滞留情報"とは、1回目計量済みかつ2回目計量を行っていない計量データのこと。
2-3	廃棄物受入（出口）	搬入車輛の計量	トラックスケールまたは計量ポストと連動し、計量した結果がシステムに自動連携されること。	
2-4	廃棄物受入（出口）	計量結果の入力	トラックスケールまたは計量ポストの計量結果を手入力できること。	
2-5	廃棄物受入（出口）	自動精算機連携	計量した正味重量に基づく精算金額を自動で自動精算機に連携できること。 なお、精算実績がシステムに自動で連携されること。	
2-6	廃棄物受入（出口）	自動精算	自動精算機を利用し、施設職員を介さずに、搬入者自身による精算ができること。 なお、現金決済、キャッシュレス決済（バーコード、IC、非接触クレジットカード等）可能であること。	
2-7	廃棄物受入（出口）	計量票・領収書の発行	計量日時、重量、搬入者区分、ごみ分類、ごみ種、車番が記載された計量票・領収書を紙（レシート）で自動発行できること。	
2-8	廃棄物受入（出口）	遮断機連携	精算終了や搬入車輛通過に応じて遮断機が自動で開閉すること。	
2-9	廃棄物受入（出口）	信号機連携	トラックスケール上の状況に応じて、信号機の点灯が自動で切り替わること。	
2-10	廃棄物受入（出口）	滞留情報の一覧表示	搬入中の車両を常時確認するため、滞留情報を専用画面で表示できること。	"滞留情報"とは、1回目計量済みかつ2回目計量を行っていない計量データのこと。
3-1	計量方法	計量回数	計量は、1回計量（登録空車重量の差で計量）、2回計量（排出後、計量しその差で計算）のいずれもできること。	
3-2	計量方法	出口側2回計量	大型車輛の場合、出口側トラックスケールでの2回計量が可能であること。	
4-1	データ管理	計量データの登録	計量日時、重量、搬入者区分、ごみ分類、ごみ種、車番、備考を計量データとして登録できること。	事業者の場合、車番はナンバープレートに記載されているすべての情報を登録する。一般市民の場合は4桁のみ登録する。
4-2	データ管理	計量データの検索	入場日付、初回登録日付、最終更新日付、搬入者区分、決済状況などの条件検索や、各項目のキーワード検索で計量データの検索ができ、検索結果が一覧で表示されること。 なお、一覧に表示する項目や並び順をパターンとして登録できること。	

別表1 機能要件一覧

No.	区分	機能名	機能詳細	備考
4-3	データ管理	計量データの確認	登録された計量データをシステム上から確認できること。	
4-4	データ管理	計量データの修正・削除	登録された計量データを修正できること。 なお、修正履歴（修正日時、修正者等）を確認できること。	
4-5	データ管理	計量データの削除	登録された計量データを削除できること。	物理削除ではなく、論理削除とすること。
4-6	データ管理	不正車輛データの登録	不正な搬入車と判断した車番を不正車輛として登録し、次回搬入時に検知できること。	
4-7	データ管理	不正車輛データの確認	不正車輛として登録したデータを確認できること。 なお、データは一覧で表示できること。	
4-8	データ管理	不正車輛データの修正・削除	不正車輛として登録したデータの修正や削除ができること。	
4-9	データ管理	不正車輛の入場履歴	不正車輛の入場履歴を一覧で確認できること。	
4-10	データ管理	権限管理	利用者に応じて操作権限の設定が可能であること。	
4-11	データ管理	データ更新処理履歴	データ更新処理の履歴を一覧で確認できること。 なお、履歴には、実行日、実行者、操作区分（新規、編集、削除、復元）、処理対象（計量データ、マスタ、システム設定）を含み、編集された箇所を特定できること。 また、上記を検索条件として指定できること。	
5-1	マスタ管理	—	職員による、マスタの登録・確認・編集・削除ができること。	
5-2	マスタ管理	ユーザー設定	職員ごとにID・パスワードを割り振り、ユーザーとしてシステムが利用できること。 なお、ユーザーごとにシステムの利用権限を設定できること。	
5-3	マスタ管理	搬入出者区分設定	収集、委託、家庭、事業など、搬入出者の区分を設定できること。	既設システムの"分類"にあたる。
5-4	マスタ管理	搬入出者設定	搬入出者情報（搬入者名、搬入者略称、フリガナ、住所、電話番号、メールアドレス、備考等）を設定できること。 なお、搬入出者ごとに搬入出者区分の紐づけができること。	既設システムの"所属名"にあたる。
5-5	マスタ管理	車輛設定	搬入者が利用する車輛情報（車番、過積載判定重量、空車重量等）を登録できること。 なお、車輛ごとに搬入出者との紐づけができること。	
5-6	マスタ管理	手数料納付区分設定	即納、後納等の手数料の納付方法を設定できること。	
5-7	マスタ管理	ごみ種設定	可燃ごみ、資源ごみ等のごみ種を設定できること。	既設システムの"品種"にあたる。
5-8	マスタ管理	処理手数料単価設定	重量あたりの処理手数料単価を設定できること。 なお、課金発生閾値を設定できること。	
5-9	マスタ管理	排出元住所設定	搬入許可住所を登録し、マスタから選択ができること。 また、登録されていない住所からの搬入を防げること。	
6-1	帳票出力	各種指定帳票の作成	「別表2 帳票一覧」に示すものを作成できること。 なお、各種帳票はCSVでの出力と、印刷可能な形式での出力が可能であること。	
6-2	帳票出力	帳票出力項目の設定	帳票の出力する項目を複数指定できること。 また、集計優先順、小計表示などを任意で設定できること。 なお、その設定内容は出力パターンとして登録できること。	
6-3	帳票出力	前年対比表示	年報において、前年の台数、正味重量、処理手数料ごとの累計と合計の対比を表示できること。	
7-1	拡張性	複数トラックスケール連携	異なるトラックスケールメーカーとシステムの連携が可能であること。	
7-2	拡張性	別拠点データ連携	別の拠点で稼働する本システムとのネットワークを通じたデータ連携が可能であること。	
8-1	操作性	対話型データ入力	手動でデータを登録する際、対話型入力方式での計量データ入力が可能であること。	
8-2	操作性	マウスレス操作	Tabキーやスペースキー、エンターキーを利用した、可能な限りマウスを使用しない操作が可能であること。	

別表1 機能要件一覧

No.	区分	機能名	機能詳細	備考
9-1	その他	QRコード再発行機能	QRコード紛失時にシステム上からQRコードを発行できること。	